

(第三種郵便物認可)

H 25. 10. 19. (土) 中国新聞

「あしながおじさん『ジュニアそれいゆ』」 中原淳一

1954年 紙本・彩色 27.5×16.7㌢

©JUNICHI NAKAHARA/ひまわりや

大正ロマン 昭和モダン

竹久夢二・高島華宵とその時代

④



内外面の美両立を追求

挿絵界において大正期 20年、香川県に生まれは竹久夢二、高島華宵、た。19歳のときに銀座松屋で開催した自作のフランス人形作品展が脚光を博した。昭和に入ると時代小説の挿絵を得意とした岩田専太郎と美少女画の中原淳一が頭角を現す。

淳一は1913（大正2）年、香川県に生まれ、19歳のときに銀座松屋で開催した自作のフランス人形作品展が脚光を博した。昭和に入ると時代小説の挿絵を得意とした岩田専太郎と美少女画の中原淳一が頭角を現す。

戦後は自らが女性、少女誌を創刊し「美しく生きる」という中原イズムを提唱し世の女性を魅了した。

淳一の描く女性は大きな瞳にはつらつとした表情、最新のファッションを身に纏い、内面的にも外見的にも美しい女性像を追求した。

（呉市立美術館学芸員・
蔦村和雄）

特別展「大正ロマン

昭和モダン」竹久夢二・高島華宵とその時代」は11月24日まで、呉市幸町の市立美術館で開催。

同美術館、市教委、市文化振興財団、中国新聞社の主催。月曜休館（11月4日開館、5日休館）。